

「愛は、すべてを完成させるきずなです。」(コロサイの信徒への手紙 3 章 14 節)

「捜していた1ピース」

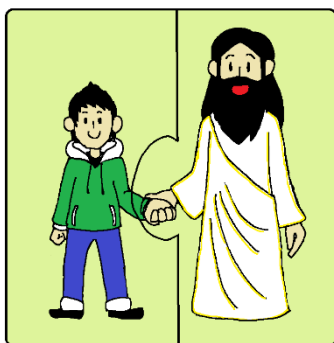
チャプレン 吉川光太郎

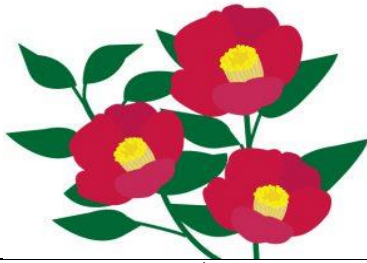
大学生だったころ、パズルにはまっていた時期がありました。バラバラだったピースが集められ、それぞれの位置にあてはめられ、きれいな絵が姿を現すというのは、何とも言えない快感があります。絵が埋まっていくにつれボルテージが上がり、何とも静かな、しかしエキサイティングな時間が流れ出します。しかし、そんな素敵な時間をぶち壊す出来事が度々起こるのです。それは最後の1ピースがなくなるという事です。一度だけ、最後まで最後の1ピースが見つからなかったことがあります。友人2人と一緒に完璧で作り上げようと頑張った1000ピースの夜空柄パズルでした。手元にあるピースがすべてなくなったのに、一つだけ穴が開いている。周りを捜しても見つからない。あのがっかり感と言ったらありませんでした。不思議ですね。99%形になっているのに、1%足りないだけですべてが台無しに思ってしまうのですから。

今月の御言葉には、そのような私たちの人生の核心に迫るものがあります。私たちはより良い人生を求め、それを形作っていきます。プランをもとに様々な努力をし、チャレンジをし、少しずつ自分が望む人生を組み立てて行きます。しかし、人生のどこかの段階で私たちは気付くのです。例外はないと、私は思います。どれほど仕事で成功し、お金を稼ぎ、家を持ち、趣味に打ち込み、周りから羨ましがられる人生を送ろうとも、それはどこまで行っても 99%でしかないという事。満たされない。何か足りない。しかし、その何かはどこにあるのか分からない。そんな不安な思いに立たされるのです。

足りない最後の 1 ピースとは何でしょうか。それは聖書が語る私たちの救い主、イエス様です。この方を知っているかどうか、私たちの人生を大きく変えるのです。この方はあなたの主として、友として、あなたと共に生きてくださいます。ご自分の命に変えてでも正しい道を示し、疲れたあなたの重荷を引き受けてくださいます。その歩みは地上で終わるのではなく、死の後、天国にまで続きます。この方の愛があなたの生涯にわたって貫かれるのです。イエス様はあなたを死のその先まで責任をもって愛してくださり、天国を確かなものにしてくださる方であると信じる時、初めてこの生涯に絶えることのない完全な希望を抱くことができます。誰もが経験する死の後のことを心配する必要がなくなるのですから。どれだけお金を積んでも、善行を積んでも見つけることのできない答えがここにあります。あなたの目の前にもう差し出されているのです。

イエス様という 1 ピースは決して 1%を埋めるだけの小さなものではありません。自分の人生の喜びが 80%に思えたとしても、50%、30%、たとえ 1%に思えたとしても、この方が共にいてくださるならば、100%になります。様々な不安や課題に襲われようとも、イエス様に祈って委ねることができる。「イエス様がいてくださるなら大丈夫だ！」と平安を歩むことができる。そんな素晴らしい絆をイエス様の側から結びたいと言っておっしゃっています。あなたに伸ばされた手を握り返しましょう。





2月のお知らせ

保育理念	受ける愛 与える愛
	—愛されていることを知り・愛する者となるために—

「ともだちとつながる」

大雪のあと、明るい日差しを頂いた日のこと、窓から差し込む光と抜けるような青い空を見つけた子ども達は、「先生！見て空！」と口々に教えてくれました。「本当に、青い空ね、明るいね」「気持ちいいね」と、子どもたちの気付きに共感しました。

2月2日には節分、そして3日には立春を迎えます。まだまだ寒い日が続きますが、眩しいほどの陽の光の中に、少しずつ春の気配を感じております。

さて、今月の主題は「いっしょに・つながる」です。この頃は、友だち同士のやり取りの中で、優しい言葉使いや、思いやりのあるしぐさが見られるようになりました。年度当初は、友だちとの関係はぎこちなく、自分と同じことに興味を示したり、同じ行動や遊びをする人を「友だち」と思っていたようです。でも自分の世界に身をおき、一人遊びも楽しいんだけど、「友だちと一緒にも楽しいな」と気付くようになりました。そうして、一緒に喜んだり楽しんだりしていくうちに、関わりが深まって、仲間意識が芽生えてきたのだと感じています。

でも、そこに至るまで「物の取り合い、許せない、譲れない、意見の食い違い、腹を立てる、順番を守らない、ルールを守らない、片付けが出来ない、自分の意見が言えない、一番でなければ駄目、折り合いがつけられない、全部わたしの物、・・・」等、さまざまな感情の起伏の経験があったと思います。だからこそ、互いの気持ちに気付き、相手を理解しよう・理解したいという気持ちになるのだと思うのです。嬉しい時・悲しい時、共に喜んだり悲しんだりしてくれる友だちこそが、一人ひとりの心の支えとなっているからです。

引っ越しをしたS君へ書いた手紙・・・「まえ、運動会して楽しかったね。闘いごっこして楽しかったね。また一緒に遊ぼうね。」「いっぱい遊んだね。いつまでも友だちでいてね。」「遊んでくれてありがとう。S君に会えなくて寂しいよ。」「ドッチボールして楽しかったね。」「またセイバーで遊ぼう」「ウルトラマンごっこ楽しかったね」「段ボール切ってくれて力持ちだったね」・・・。このような温かい手紙を見せもらう度に、目の前にいないS君のことを思いやる優しい心が、それぞれの心の中にしっかりと育っていることを実感しています。

「ともだちとつながって」こらからも日々豊かに過ごしてほしいと思います。